

第27回日本緑内障学会 モーニングセミナー1

Conventional Outflow:

# 線維柱帯から房水静脈への 流れを紐解く!

日時 2016年9月18日(日) 8:00~8:50

会場 パシフィコ横浜 第2会場 503(390席)

座長

新家 眞 先生  
関東中央病院 病院長



緑内障の眼圧上昇は、房水の流出障害、特に主流路における線維柱帯での流出抵抗異常が大きく関与していると考えられている。従って、線維柱帯における流出抵抗を減らし、房水流出を促進すること (conventional outflowの促進) は、最も生理的な眼圧下降と考えられ、現在の緑内障標準術式の一つであるtrabeculotomyや、点眼剤であるROCK阻害薬の奏功機序はそこにあるわけである。

房水は線維柱帯、シュレム管、最終的には上強膜静脈を經由して眼外へ流出するので、この経路の制御機構を理解することは、治療成績の予測あるいは治療結果に対する解釈において非常に重要である。

本セミナーでは、薬剤や手術の応用からわかってきた主流路での房水制御・眼圧下降機構について、経験豊富な3人の演者に講演していただく。眼圧制御機構の理解に役立つホットな最新情報が伺えるものと期待している。

講演  
1

ROCK阻害薬の使用経験：  
眼圧・血流への作用

杉山 哲也 先生  
京都医療生活協同組合・  
中野眼科医院 院長



講演  
2

トラベクトームを用いた  
房水静脈の臨床効果

植田 俊彦 先生  
二本松眼科病院 副院長



講演  
3

Conventional Outflowを  
制御する仕組み

谷原 秀信 先生  
熊本大学大学院 生命科学研究部  
眼科学分野 教授

